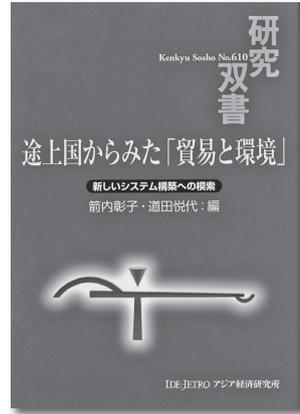


## 箭内彰子・道田悦代編 『途上国からみた「貿易と環境」 —新しいシステム構築への模索—』

研究双書 No. 611



書では、「貿易と環境」問題に接近する方法として、これまであまり取り上げられてこなかった途上国の視点を切り口とした。そして、貿易と環境という二つの

自由貿易と環境保護という二つの要素の関係性については、既にさまざまな観点から考察が加えられ、多くの知見が明らかにされている。しかし、この「貿易と環境」問題に「開発」の要素を加えると、状況は一気に複雑で混沌としたものになる。途上国を取り巻く状況は急速に変化し、それにともなつて途上国が直面する課題も変化しているからである。例えば、グローバルサプライチェーンの拡大は、それにつながる途上国企業に環境問題への対応を迫っている。また、先進国で実施される環境政策が、貿易を通じて途上国の貿易と環境に影響を与える事例も増えている。

国際政治においても途上国の発言力は高まっており、国際環境条約や国際貿易ルール策定の場での合意形成に途上国の賛同は欠かせない。環境問題への対応を議論する際、途上国の「貿易と環境」に対する姿勢や考え方についての考察は不可欠である。そこで、本

体制のはざまで見落とされがちな問題を拾い上げ、貿易と環境に関する既存の制度や政策の問題点を途上国の立場に立つて明らかにすることを目的とした。

本書は、序章、第一部（第一章～五章）、第二部（第六章～一〇章）、終章にあたる「おわりに」という構成をとっている。序章では「貿易と環境」問題のこれまでの議論の流れを概観したうえで、途上国をめぐる状況変化として(1)グローバル化の進展、(2)途上国の多様化、(3)環境規制の強化・多様化、(4)自由貿易体制における環境配慮の動き、(5)グリーン成長の促進を挙げ、本書の分析視角を提示している。

第一部では、個別の環境分野における貿易と環境そして途上国の位置づけについて考察を行った。具体的には、

地球温暖化、有害廃棄物の越境移動、森林の持続可能性、製品環境規制（化学物質規制）、食品安全規制という、それぞれ途上国にとって異なる影響のメカニズムと役割をもつ代表的な環境 이슈を取り上げた。まず国際レベルで対応されている事例として第一章で国連気候変動枠組条約を、第二章でパーゼル条約を扱っている。環境条約の貿易に対する影響や、条約策定の経緯、また途上国に関してどのような議論がなされてきたのかについて考察を行っている。第三章の森林の持続可能性については国際環境条約がなく代替手段である二国間協定での違法伐採に対する取り組みや、各国の認証制度などの効果を検討している。さらに、各国レベルで対応されている事例として第四章では、EUのROHS指令やREACH規則など近年先進国を中心に導入が進む製品環境規制を取り上げ、適用の際の要件や他国への影響などを検討している。そして第五章では、各国の食品安全規制についてWTOのSPS委員会が扱う「特定の貿易上の関心事項」の活用状況を分析し、食品を輸出入する際に途上国が直面する課題の抽出を試みている。

第二部では、第一部で扱った環境イシューに共通する横断的な論点を取り上げ、関連する政策や、その課題などについて考察した。第六章では貿易分野と環境分野における途上国優遇措置

の相違を検討している。第七章では、グリーン経済を促進するために途上国が実施する補助金がWTOルール上容認される余地があるのか、途上国の経済発展という観点から、そうした補助金のWTO協定における法的位置づけを試みている。第八章では近年増加しているNGOや企業のプライベートスタンダードが途上国の環境や経済にどのような影響をもち得るのか、また民間の取り組みが政府の実施する環境政策を補完し得るのかを検討している。第九章では地域貿易協定における環境条項の特徴を考察したうえで、そうした環境条項の枠外で途上国が地域貿易協定に起因する環境被害に直面している現状を検討している。第一〇章では、途上国のキャパシティ・ディベロップメントの重要性に注目し、貿易と環境に関連するキャパシティ・ディベロップメントがどのように取り組まれているのか、その課題は何かを考察している。

貿易と環境にかかわる課題は、近年複雑さを増している。本書で取り上げた環境課題は多くのうちの一部にしか過ぎないが、本書を通じて、途上国が今どのような状況におかれているのかの理解につながれば幸いである。

（やない あきこ／アジア経済研究所  
法・制度研究グループ）